



児童ら自由に学べる場

Cafe de 寺子屋 大学生ら無償で教え



高校生と話しながら宿題を進める子どもたち
(6月24日、藤枝市若王子の寺子屋あすはで)

全国のカフェに子どもたちの学びの場を作ろうと、藤枝市のNPO法人「Cafe de 寺子屋」が奮闘している。大学生らが無償で勉強を教える取り組みを進め、利用する児童たちからは「楽しく勉強できる」と好評だ。2020年の発足以降、活動拠点は県内外に広がり、5、6月のクラウドファンディング(CF)で200万円超を集めるなど、各地で共感を得ている。藤枝市若王子の公園近くの屋内施設「ASUHA」に6月24日、学校帰りの小学生が続々と集まってきた。この場所は「寺子屋あすは」と名づけられ、毎週金曜に地元の大学生や高校生が子どもたちの宿題を見ている。この日は、高校生ら4人が児童7人と向き合った。「先生できた!」「何かヒントちょう

だい」と、元気な声が響く。約1時間半の教室を終え、算数に取り組んだ藤枝市立西益津小4年の大塚心遥さん(9)は「角の大きさが分かるようになった」と声を弾ませた。市立藤

枝小3年の内藤煌真君(8)は「家だとテレビがうるさいから寺子屋の方が集中できる」と話し、母親の睦さん(35)は「自分と教え方が違うこともあるので助かっている」と感謝した。

団体は、市出身の東大院生大石紗矢香さん(24)が20年4月に設立した。個人的に関心があった食糧問題をはじめとする社会課題に取り組むには、自分で問題を解決する能力や協調性を身につける必要があると考えていた。静岡大時代の学習塾でのアルバイト経験も踏まえ、「学校

児童を見送った後は、振り返りのミーティングを開く。「会話を減らすために席の配置を考え直した方がいい」「困っているときだけ話しかけよう」などと運営の改善に向けた意見が相次いだ。藤枝明誠高1年の小川菜実さん(16)は、子どもと関わる仕事に興味があり、参加している。「答えを教えずに導いていくのが難しい。心を開いてもらうため、自分から壁を作らないように接している」

団体は全国展開を目標に掲げ、CFで集めた約220万円を新たな寺子屋の備品や広報の経費に充てる。大石さんは「善意や共感で成り立っているので応援の声はうれしい。子どもたちがのびのびと学べる場を全国に広げ、社会全体が良くなっていけば」と話している。
(村瀬駿太郎)

の勉強ではなく、子どもが好きなことを自由に学べる場所を作ろう」と思い立った。カフェを選んだのは、「自学自習」と「対話」を両立しやすい環境だからだ。カフェには、一人で作業する人もいれば、おしゃべりする人もいる。大石さんがSNSで協力者を募ると、大学生約30人が手を挙げた。同7月、焼津市に第1号の寺子屋をオープン。メンバーは口コミで増え、場所を提供してくれるカフェも県内外で増えた。拠点は4月時点で、7都県13か所に広がり、協力する大学生や高校生は約150人になる。寺子屋は、大学生らが子どもと接する貴重な場にもなっている。